



## 大阪部会(第 63 回)

日 時: 2019 年 4 月 27 日(土) 18:00~20:30

場 所: 同志社大学大阪サテライトキャンパス

【内容要旨】 第 63 回の出席者は 25 名。

(1) まず、岡部ちはる氏(東京証券取引所)から、「先生のための夏休み経済教室」のプログラムが紹介され、篠原総一代表(同志社大学名誉教授)から、プログラムの趣旨説明があった。日程と開催場所は以下の通りである。

8 月 5 日(月) 大阪・中学校向け 国民会館

6 日(火) 大阪・高校向け

8 月 8 日(木) 9 日(金) 東京・高校向け 東証ホール

19 日(月) 20 日(火) 東京・中学校向け 東証ホール

(2) 次に、川村由美子氏(市立咲くやこの花中学)から「中学校における「一人ひとりの課題探求力をはぐくむ指導・評価」の実践的研究」と題する報告があった。川村氏の実践は、前回丹松美代志氏(大阪教育大学等)から紹介され、夏休み経済教室でも報告が予定されている。川村氏は、中学 1 年生に「世界のさまざまな地域の調査」、2 年生に「観光大使になって都道府県の魅力を伝えよう」と題した課題設定・調査・分析・発表・レポート執筆を行わせ、それらを 3 年生の卒業レポートにつなげることを実践してきた。

今日は、とくに 3 年生が卒業レポートの完成にいたる過程が報告された。ブレインストーミングなどアクティブラーニングの手法、他教科との横断的な学習、課題設定のための個人面談、関係する専門機関や専門家へのアプローチ、プレゼンテーション大会などが紹介された。出席者からは、ルーブリックを提示した評価の仕方、生徒へのフィードバック、生徒自身による課題設定の難しさなどについて、質問や意見が出された。

(3) 山本雅康氏(奈良学園中学高校)からは、「大学入試共通テスト試行問題などの入試問題を使って思考力判断力表現力を身につける授業の実践」が報告された。センター新テストでも近年の大学入試でも、グラフや表を読み取って、現実問題について考えさせ、判断させる問題が増加している。山本氏は、そのような問題を使って、生徒を二人ひと組にして議論させながら解答させ、それを通して必要な力を身につけさせようとしている。また、総務省「なるほど統計学園高等部」などを活用して統計データや様々なグラフにふれ、さらには地域経済分析システム(RESAS)を使って、生徒の研修旅行の事前学習に活用するなど、様々な方法で、事実にもとづく思考・判断・表現を体験させている。

(4) 統計データを読ませる問題は、大学入試だけでなく高校入試でも増えている。当ネットワークでは、小巻泰之氏(大阪経済大学)に夏休み経済教室での講演を依頼しており、今日は「授業で役立つ経済学 統計データの読み解き方」の下案が示された。



(5)行壽浩司氏（福井県美浜中学校）から、「公共財を題材にした教材開発～『雪かきゲーム』から考える～」が報告された。2018年12月の大阪部会で飛び入り参加・報告されたものであり、主な内容は第61回大阪部会要旨で紹介した。夏休み経済教室では、大阪と東京での報告が予定されている。

(6) 飯島知明氏（島本町立第一中学校）から「NIEを活用した探求活動から社会討論へ」が報告された。第55回の大阪部会でも報告いただいた活動が、ますます広がりを見せていることが分かる。飯島氏には、川村氏とともに、夏休み経済教室で大阪でも東京でも登壇いただくことになっている。

(7) ほかに、安野雄一氏（東三国小学校）から「金融教育 未来の運用の仕方を考えよう～小学校における価値判断・意思決定力を育む学びを通して～」、大塚雅之氏（三国ヶ丘高校）から「高卒認定試験の経済分野の問題の分析」、奥田修一郎氏（大阪教育大学等）から「アリンコ国の外国人労働問題」の資料が配られたが、今回は夏休み経済教室関連を優先したため、残念ながら報告いただく時間がとれなかった。

（文責 野間敏克）

次回開催予定：2019年6月29日（土）、時間は18:00～20:00、場所は同志社大学大阪サテライトキャンパス（予定）。